



南スーダン国内で実施する衛生普及活動の様子



The Republic of
South Sudan

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

母国のために 南スーダン事業の仲間たちの思い

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動が続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみ! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク5月号の販売部数

5,613部×3円=16,839円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票

発行日: 2014年5月1日

発行時間: 10:00~18:00

発行場所: 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

発行元: 株式会社メディコム

発行先: 南スーダン共和国

発行金額: 16,839円

発行内容: 南スーダン国内避難民・難民支援事業

発行手数料: 0円

発行番号: 16839

発行日: 2014年5月1日

発行時間: 10:00~18:00

発行場所: 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

発行元: 株式会社メディコム

発行先: 南スーダン共和国

発行金額: 16,839円

発行内容: 南スーダン国内避難民・難民支援事業

発行手数料: 0円

発行番号: 16839

発行日: 2014年5月1日

発行時間: 10:00~18:00

発行場所: 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

発行元: 株式会社メディコム

発行先: 南スーダン共和国

発行金額: 16,839円

発行内容: 南スーダン国内避難民・難民支援事業

発行手数料: 0円

発行番号: 16839



月刊タウン情報トクシマ

タウトク

medicomm inc

株式会社メディコム

月刊タウン情報トクシマ編集部

「父と兄の安否が分からないんだ」。4月初旬、ケニアの首都ナイロビの飲食店。ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)が南スーダン事業で協働する現地NGO「The Health Support Organization」(THESO)代表のジェフ(35)は、唐突にそう言った。夕食の席にそぐわない重い言葉に、私は食事の手を止めた。もし自分の父が、兄が、紛争に巻き込まれて生死が分からなかったら——。ジェフのように母国に残り、他人のために働けるか。彼の原動力はどこから来るのか。

3月下旬から約2週間、担当するアフリカの各事業地に出張した。普段は東京事務所からメールや電話で現地スタッフと連絡を取り、南スーダンやウガンダ、ケニアの難民キャンプなどでの事業を進めている。今回PWJ事務所を置くナイロビでの会議で、THESOのメンバーと初めて顔を合わせる機会があった。

南スーダン国内は昨年7月から内紛が絶えず、日本人スタッフは入国できない状況が続いている。PWJは南スーダン国内に直接支援を届けられることができるTHESOと協力し、4万人規模の国内避難民キャンプや周辺地域で安全な水を供給したり、トイレを建設したりしている。南スーダンと言えば「自衛隊が事業に区切りをつけて撤収した」という報道で記憶に新しいが、国際社会では「アフリカ最大の危機」と言われ、国内避難民が193万人、国外に逃げた難民が189万人にもものぼるとされる。3月末には、私たちと同じ支援関係者6人が殺害される事件もあった。

THESOのメンバーは危険と隣り合わせの中、不条理な紛争に苦しむ人たちのために汗を流している。「国内避難民キャンプのセキュリティ面は日々異なる」といい、キャンプに水を運ぶ給水車が政府軍に襲われたり、支援が偏ればキャンプ内で暴動が起きたりすることもあるという。それでも、メンバーの一人は「THESOの仲間がいるから、自分も鼓舞されて頑張ろうと思えるんだ」と力強く語る。

会議では今後の事業計画について、限りある予算と一人でも多くの人に支援を届けたいという思いの狭

間で議論がなされた。驚いたのは彼らの集中力。午前9時に始まり、昼食も食わず、休憩もはさまず、終わったのは午後4時。私がこれまで経験した中で最も長い会議となった。一方、国内避難民キャンプ内の小学校にトイレを建てた際のセレモニーの動画も披露してくれた。メンバーたちの緊張感にあふれる顔つきが、一気に緩んだ瞬間だった。



会議で意見を交わし合うTHESOのメンバーたち



小学校トイレが完成した際のセレモニーの様子

ジェフの家族の話はこの日夜、会議の労をねぎらい合っていた時のことだった。THESOのメンバーと握手して別れた後、私は彼らの思いが少しわかった気がした。THESOを突き動かすのは、キャンプに避難している人たちと同様に、母国で多くの苦しい思いを経験してきたからなのだ、と。日本で生まれ育った私には想像しできないけれど、同じ事業を運営するパートナーとして誇らしく思うとともに、彼らの高い志に少しでも近づきたい。そんなふうに思え、実りある出張になった。PWJは引き続き、THESOの仲間たちとともに、南スーダンが直面する人道危機に最大限の支援を届けていく。(敬称略)

アフリカ事業担当 田中佑依

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。